

令和5年12月18日
(2023年)

保護者のみなさま

吹田市立東山田小学校
校長 植村 誠

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数と理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

☆平均正答率は全国値を上回っている。

☆記述式問題では無回答率は全国値よりもはるかに少なく、意欲的に取り組んでいる。一方で、複数の資料を読んでわかったことをもとに自分の考えを書きまとめる問題のみ、全国値を下回っている。普段の授業づくりにおいて「書く活動」を充実させ、自分の考えを豊かに書きまとめる力をつける必要がある。

☆「国語の勉強は好きか」、「大切だと思うか」、「言葉の働きについて学んでいるか」といった国語の授業に対する意識は、全国値を大きく上回っている。

《各領域における成果と課題》

言葉の特徴や使い方に関する事項

・「漢字を文の中で正しく使うことができる」は全国値を大きく上回っている。

情報の扱い方に関する事項

・「原因と結果など情報と情報との関係について理解する」は全国値を少し下回っている。

話すこと・聞くこと

・「話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」は全国値を上回っている。
・「話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」は全国値とほぼ同様である

書くこと

・記述式問題では、無回答率が全国値を下回り、また課題で与えられた条件に対して十分な回答が得られなかったという回答率が全国平均に比べ高いことから、少しでも書こうとする部分が見られる

読むこと

・「目的を意識して要約することができる。」では、全国値をやや上回っている。
・「資料から図やグラフを結びつける」ことは、全国値を上回り、資料の読み取りができて
いる。
・「文章から自分の考えをまとめることができる」ことは、全国値を下回っているが、無回答率は低く、条件をすべて満たせず誤答になっている。

《国語科における今後の指導改善点》

14問中11問で全国の正答率を上回っておりおおむね良好と考えている。しかし、無回答率は、14問中4問で全国値を下回っており、課題があると考えている。特に、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題は全国値を大きく上回っており、基礎学力がしっかりと定着していることがうかがえる。今後も、個別の課題を精査しながら、協働的な学びの中で、根拠を持った自分の考えを書いたり、説明したりする機会を増やし、ICTの活用を含めて、児童の主体性を大切にした授業作りに力を入れていきたい。

●算数《概要》

☆平均正答率は、全国値を上回っている。

☆無回答率が全国値より高く、最後まで考えることに課題があると考えられる。

☆算数に関する基礎的・基本的な知識および技能が身につけていると考えられる。

《各領域における成果と課題》

数と計算

- ・平均正答率が全国値を上回っている。加法と乗法の混合した式を読み取ったり計算したりする力は高い結果となった。しかし、商を求める筆算の意味理解については正答率も高くなく、算数の考え方の定着に課題がみられる。

図形

- ・図形の理解においては、平均正答率が全国値を上回っており、台形や正方形の意味や性質についておおむね理解していると考えられる。しかし、図形の特徴から考える角度や面積の理解については課題がみられる。

測定

- ・今年度は、「測定」領域の問題は、実施されなかった。

変化と関係

- ・平均正答率が全国値をやや上回っている。しかし、「比例関係」を用いて、知りたい数量の求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題については正答率は高くなく、日々の学習の中で自分の考えを書き表したり話したりする活動を継続して行う必要があると考えている。

データの活用

- ・平均正答率が全国値を上回っている。表の意味を理解し、必要な数や条件に合う数を読み取ることはできている。しかし、グラフを読み取り言葉と数を用いて記述する問題については、無回答率が高く、グラフを読み取り比較し記述する活動を継続して行う必要があると考えている。

《算数科における今後の指導改善点》

16問中15問で全国の正答率を上回った。算数の基礎的な力もついており、おおむね良好と考えている。しかし、無回答率が16問中10問で全国値を上回っており、問題を最後まで考えようとする意欲に課題があると考えている。また、正答が2000となる解答に200と答えるといった誤答が多くあり、解を予想し、量感をもって問題を解くことができる力をつけていきたい。今後もICTの活用を進め、個別最適な学びを通して自分の考えをしっかりと持ち、協働的な学びを通し思考力判断力を育む指導に力を入れていきたい。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向（児童質問紙の結果から）

*生活習慣について

- ・本校児童は、起床や朝食のリズムが出来ており、全国値を上回っているが、就寝時刻については、全国値とほぼ同様の結果となった。
- ・読書が好きだと答える児童の割合が全国値を上回っている。また、1日当たり読書をする時間についても全国値を上回っている。

- ・学校の授業時間以外の学習時間は、全体的に低く、ほぼ全国値と同様の結果となった。

*規範意識について

- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は、全国値を上回っている。

*自尊感情について

- ・「自分にはよいところがあると思いますか」や「先生は、あなたの良いところを認めてくれると思いますか」という質問に対して、肯定的な回答が全国値を上回っている。また、「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問に対して、肯定的な回答が全国値を大きく上回っている。しかし、「将来の夢や目的を持っていますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童は、全国値とほぼ同様の結果となっている。

*友達関係、その他の項目について

- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」や「友達関係に満足していますか」という質問に対して、肯定的な回答が全国値を上回っている。
- ・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に対して、全国値を下回っている。

*学習について

- ・「家では自分で計画を立てて勉強していますか」に対して、肯定的な回答が全国値とほぼ同様の結果となった。
- ・「5年生までに受けた授業でPC、タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問に対して、「ほぼ毎日」や「週3回以上」と回答した児童が全国値より高い結果となっている。
- ・「自分の考えを発表する機会では、資料や文章、話の組み立てなど工夫して発表していましたか」という質問に対して、肯定的な回答が全国値を大きく上回っている。

3 課題及び今後の取り組み

調査結果から、学習面では、基礎基本の力が身につけている児童が多く、与えられる学習に対しては意欲的に取り組んではいますが、主体的に、自分の思いや考えから学習計画を立て調べたり創作したりすることに課題があると考えます。また、学校やご家庭での読書量も多く、授業等でタブレットを学習に役立てる力も身につけてきています。学校では、タブレットを他の文房具を使うのと同様な感覚での活用を進めており、今後も個別の学習や協働的な学びの中での活用を進めてまいります。自主的な学習については、どのように進めればいいのか、どんなときどんな内容に取り組めばいいかを学年の発達段階に合わせて、学校全体で取り組んでいるところです。

また、生徒指導上の課題としていじめ防止についても継続的に取り組みを進めており、児童のいじめ防止に対する意識も高い結果となっていますが、その知識をいかに自分事として捉え、学校生活をより良いものにしていくかが大きな課題です。今後、さらに、いじめ防止授業の推進やデイケンの活用も併せて取り組みを進めていきたいと考えています。

最後に、東山田小学校すべての子供たちが、自己肯定感を持ち、友達と支えあいながら、何よりも「明日も学校が楽しみや」と感じる事が大切なことだと考えています。今後とも子供たちが主体となり楽しく「わかる」授業をめざして取り組みを進めてまいります。また、自分自身を認め、まわりの人からも認められるという経験を、一人ひとりが持てるよう、成功体験や達成感を味わえるように、ご家庭と協力して取り組んでいきたいと考えています。

今後とも、本校教育活動に対し、保護者の皆様のご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願いたします。